Science Journal of Kanagawa University
投稿規定

1　編集方針

Science Journal of Kanagawa University は、神奈川大学総合理学研究所の事業および研究の成果を公表する科学誌であり、事業報告、公募研究の成果報告論文、数学、物理学、情報科学、化学、生物学その他理学全般にわたる所員による一般研究論文、所員が所外の研究者と行なった共同研究に関する論文等を掲載する。投稿者は原則として神奈川大学総合理学研究所所員であるが、編集委員会の承認により所員以外の投稿論文も掲載する。論文の共著者については特に規定しない。本誌名称の略記は*Sci. J. Kanagawa Univ.*とし、和名は神奈川大学理学誌である。

2　掲載論文の種類

研究論文は、総説（Review）と原著（Full-Length Paper/ Note）、および報告書（Report）とする。原著には短報（Note）を含み、報告書（Report）は原著に準ずる。

上記論文の他に、テクニカルノート（Technical Note）、教育論文（Educational Paper）および研究交流報告（Report of Research Communication）を掲載する。

掲載する論文は和文および英文である。

3　原稿の体裁（総説および原著）

総説および原著論文（短報を含む）の原稿は、下記要領に従って、そのまま印刷できるように仕上げる。なお、テクニカルノート、報告書、教育論文および研究交流報告についてはそれぞれ以下の４、５、６、７に示す。

(1)　頁数

短報は、刷り上がり４頁以内とするが、それ以外の論文には特に頁制限はない。但し、編集委員会により論文が冗長と判断された場合には頁数は限定される。また、12 頁を超える場合には、超過分に係わる経費は著者の負担とする。

(2)　原稿用紙サイズ

Ａ４版の用紙を用いる。本文および図表の占める範囲（紙面）は縦横 245 × 170 mm とする。この場合、余白は、上辺 30 mm、下辺 20 mm、左辺 20 mm、右辺 20 mm である。

(3)　段組み

研究課題名、著者名、研究課題名 (英語)、著者名（英語）、所属（英語）、Abstract（英文）、Keywords（英語）は１段組みとする。但し、所属、Abstract、Keywords は紙面内で更に左右およそ 10 mm ずつの余白を置く。

研究課題名、著者名、研究課題名（英語）、著者名（英語）は中央揃え、所属（英語）、Abstract（英文）、Keywords（英語）は左右両端揃えとする。

序論、材料と方法（または方法）、結果、討論（または結果と討論）、謝辞、文献は２段組み、左右両端揃えとする。

(4)　使用文字（フォントの種類）

基本的に、和文はＭＳ明朝、英文は Century とする。但し、μ などのギリシャ文字や数学記号などを部分的に異なる字体にすることは差し支えない。

図の説明文および表もこれに準ずるが、図中の文字や記号については特に限定しない。文字サイズは下記の各項目で指示する。

(5)　論文構成

研究課題名、著者名、研究課題名（英語）、著者名（英語）、所属（英語）、Abstract（英文）、Keywords（英語）、序論、材料と方法（または方法）、結果、討論（または結果と討論）、謝辞、文献（英語または日本語）の順とする。図と表は本文中の適切な位置に挿入する。

(6)　論文種の表示

第１頁、第１行目に左揃えで、前後に■記号を付して論文種を記入する。

例えば、■総　説■、■原　著■、■原著（短報）■、■報告書■ など、

英文では、■ Review ■、■ Full-Length Paper ■、■ Note ■、■ Report ■ など。

最終的には編集委員が判断して論文種を決定する。

文字は、ＭＳゴシックで 11P（ポイント）とし、太字にはしない。

次の研究課題名まで１行あける。

（7） 研究課題名、著者名、所属

本文が和文の場合、研究課題名（日本語）は太字（Bold）で 14P（ポイント）、著者名（日本語）は太字で 12P とする。著者と著者の間は１文字分のスペースをあける。

続く、研究課題名（英語）は 13P、著者名（英語）は 12P、所属（英語）は 9P とし、これらは太字にしない。

本文が英文の場合、研究課題名は太字で 14P、著者名は太字で 12P、所属（英語）は太字にせず 9P とする。

それぞれの間は１行あけを原則とするが、著者名（英語）と所属（英語）の間は行間をあけない。

著者の所属が複数の場合には、各著者名末尾および対応する所属の先頭に上つき数字（１、２、３、など）を付し区別する。

本文が英文の場合、研究課題および所属は前置詞、冠詞、接続詞を除き各語の最初の文字を大文字で記述し、著者名はフルネームで名姓の順に記述する。最終著者の前は“and”を置く。

次の Abstract までは１行あける。

（8） Abstract

要旨は原則的に英文とする。語数は 250 語程度が適切である。

見出し（Abstract：）からは１文字あけて要旨本文を書く。

文字サイズは、見出し（Abstract：）は太字で 11P、要旨本文は 10P とする。

（9） Keywords

要旨に続けて、行間をあけず、Keywords：の見出しを置き、１字あけて、５語程度（英語）の Keywords を付す。

文字は 10P を用い、見出し（*Keywords：*）はイタリックで太字とする。

次の本文との間は１行あける。

（10） 本文

横２段組、各段 48 行とする。

１行の文字数は和文 23 文字、英文 46 文字とする。

序論、材料と方法（または方法）、結果、討論（または結果と討論）、謝辞、文献の各項目の見出しは左揃えとする。

各項目間は１行分のスペースをあける。

文字サイズは、各項目の見出しは太字で 12P、本文は 10P とする。

各項目の第１段落の出だしは左寄せではじめ、第２段落から出だしを１文字（英文では２文字）あける。

必要なら、各項目内で小見出しを設ける。小見出しは太字で 10.5P とする。

小見出しの文章の出だしは左寄せとする。

（11） 文献

文献の項目見出しは左揃えとする。

文献は本文に引用した順に番号を付し、記載する。

番号は片括弧（閉じ括弧のみ）表示とする。

本文中では、片括弧つき番号を“上つき文字”とし、該当する部分に必ず記入する。

文字サイズは、項目の見出しは太字で 12P、各文献は 9P とする。

文献が日英混合の場合、和文の文献のアルファベットと数字には、Century のフォントを用いる。

以下は記入例である。著書、分担著書、原著、学位論文、学会発表などにより表記法が異なるので、それぞれの記入例を参照して正確に記載する。

1） Fawcett DW and Revel J-P (1961) The sarcoplasmic reticulum of a fast-acting fish muscle. *J. Cell Biol.* **10** Suppl: 89-109.

2） Suzuki S, Hamamoto C and Shibayama R (2005) X-ray microanalysis studies on the calcium localization along the inner surface of plasma membranes in the anterior byssus retractor muscle of *Mytilus eduis*. *Sci. J. Kanagawa Univ.* **16**: 9-17.

3） Squire J (1981) *The Structural Basis of Muscular Contraction*. Plenum Press, New York.

4） Suzuki S and Sugi H (1982) Mechanisms of intracellular calcium translocation in muscle. In: *The Role of Calcium in Biological Systems, Vol.I*. Anghileri LJ and Tuffet-Anghileri AM, eds., CRC Press, Boca Raton, Florida. pp. 201-217.

5） Owada M (2011) Phylogeny and adaptation of endolithic bivalves in the Mytilidae. *D.Sc. thesis, Kanagawa University*, Japan.

6） Taiz L and Zeigen E［西谷和彦，島崎研一郎 監訳］(2003) *テイツザイガー植物生理学 第３版*．培風館，東京.

7） 鈴木季直 (1989) 電子顕微鏡による生物試料

の元素分析法．*微生物* **5**: 34-44.
8) 佐藤賢一，鈴木季直 (1998) *生命へのアプローチ*．弘学出版，東京．
9) 鈴木季直 (1992) 凍結技法，第６章．*よくわかる電子顕微鏡技術*．平野　寛，宮澤七郎監修，朝倉書店，東京．pp. 137-148.
10) 安積良隆，鈴木秀穂 (2003) シロイヌナズナを用いた植物の有性生殖研究における最近の展開 2003．*神奈川大学総合理学研究所年報* 2003. pp.41-80.

※ インターネット情報を文献として引用する場合は、著者（年）論文タイトルなどの末尾に［　］付きで、［doi. --------］、［www. --------］、［http://www. --------］のように記述する。なお、閉じ括弧のあとには必ずピリオドをつける。

(12) 表

本文中の適切な部分に挿入し、紙面内では中央揃えとする。

表の上部には必ず番号（表 1.、Table 1. など）とタイトルを付し、本文との整合を期す。

表のタイトルは、表の幅にあわせて両端揃えとする。タイトルの末尾にピリオドはつけない。

表のスタイルについては特に定めないが、用いる文字や数字のサイズは本文のそれを超えないように配慮する。

なお、本文への挿入の他に各表の抜粋も作成し、電子媒体として原稿に添付する。

(13) 図

本文中の適切な部分に挿入し、紙面内では中央揃えとする。

図には必ず番号（図 1.、Fig.1. など）を付し、本文との整合を期し、図の下部に番号と説明文を加える。図が細分化されている場合には、A、B、C …（図 1A.、Fig.1A. など）をつけて区別する。

図のタイトルの末尾にはピリオドを置く。

図のタイトルと説明文は、図の幅にあわせて両端揃えとする。

図のタイトルと説明文に限り、和文でもピリオド（.）とカンマ（,）を用いる（和文の句読点は用いない）。

図の番号および説明文の文字サイズは 9P とする。

図はできるだけ分かりやすいものとし、図中の文字や記号は高さ 3 ～ 5 mm 程度にする。

写真はデジタル化で不明瞭にならないよう、極度の圧縮は避ける。

なお、本文への挿入の他に各図の抜粋も作成し、電子媒体として原稿に添付する。これらの図は、あまり圧縮せず、電子密度 300dpi 程度の原図とする。

(14) 単位

SI unit を用いる。和文であっても、原則的に、数値および単位には半角文字を用い、%および℃を除き、数値と単位の間は必ず半角分スペースをあける。

(15) 作製見本

希望者には作製見本 (デジタルファイル) を配付する。

原稿は、作製見本および既に発表されている本誌の各論文を参照して作製する。

4 原稿の体裁（報告書）

これに該当するものは、神奈川大学および総合理学研究所より研究費助成を受けた研究の報告書である。

下記要領に従って、原稿はそのまま印刷できるように仕上げる。

個別の助成研究の報告書は原著と同等に扱うので３の規定に準じて原稿を作製する。

多人数による共同研究のうち、

(1) 各研究者が全員原著と同等の論文（短報の場合も含めて）を投稿出来る場合は、それらを原著として扱い、原稿は３の規定に準じて作製する。

(2) 各研究者が要約を作製し、代表者がそれらを一つの報告書としてまとめる場合は、編集委員会の指示に従ってこれを作製する。この場合も、文書のレイアウト、フォントの種類とサイズなどの基本的な原稿作製基準は３の規定と同じである。

報告書のうち、著者が希望し編集委員会が採択したもの、あるいは編集委員会が選択し著者の同意が得られたものは原著または短報として掲載する。

5 原稿の体裁（テクニカルノート）

これに該当するものは、研究技術および研究装置の紹介記事である。

研究論文（原著および報告書）の規定に準じて原稿を作製する。

6 原稿の体裁（教育論文）

これに該当するものは、自然科学分野の教育研究や教育技法に関する論文、および完成度が高く簡潔に纏められた実習テキストなどである。

研究論文（原著および報告書）の規定に準じて原稿を作製する。

7 原稿の体裁（研究交流報告）

これに該当するものは、研究交流を目的とした他大学・研究所訪問記、海外研究留学報告、国内外開催の国際学会参加報告などである。

本誌、18 巻掲載の該当論文を参照し、英文要旨を省略できることを除いて、研究論文（原著および報告書）の規定に準じて原稿を作製する。

8 投稿と略題名（Running Title）提出

明瞭に印刷された図を含むオリジナルの印刷された原稿 1 部とそれがファイルされているデジタル記録媒体（FD、MO、CD など）を編集委員会（神奈川大学総合理学研究所）に提出する。

論文の課題名が長い場合には、和文で 25 字、英文で 50 字以内の略題名（Running Title）が必要である。略題名は原稿に加えず、別紙に記入して提出する。

9 投稿論文の審査

適時、レフリーによる校閲を行ない、採否や再投稿請求は編集委員会で決定する。

総説、および編集委員会が認める特殊な報告書の場合を除き、既に発表されている論文の版権を侵害するような原稿は採用されない。

10 原稿の校正

掲載決定原稿は、ゲラ刷りの段階で著者の校正を依頼する。校正は最低限の修正に留める。

11 投稿料

原則として投稿は無料であるが、カラー印刷を含むものについての著者経費負担の有無および負担額は編集委員会で決定する。投稿原稿の体裁が規定にあわず、編集段階で修正に経費が生じた場合は著者が実費を負担するものとする。また、いずれの範疇であっても、論文が 12 頁を超える場合には、超過分に係る経費は著者がその実費を負担するものとする。

12 別刷

掲載された総説および原著（短報を含む）は別刷り 50 部が著者に無料贈呈される。50 部を超えて希望された別刷部数については実費を徴する。

13 版権等

掲載論文の内容についての責任は著者が負うものとする。その著作権は著者に属するが、著作権のうち、複製権および公衆送信権については神奈川大学図書館に許諾を与えるものとする。論文内に使用した他者の著作物（図版や写真など）の転載許可は著者の責任において投稿前に行う。

出版権は神奈川大学総合理学研究所に属するが、総合理学研究所は頒布の便を図るために、神奈川大学学術機関リポジトリを通じて「Science Journal of Kanagawa University」を公開するものとする。